



H28年度人権・同和教育だより *1学期編

平成28年7月20日

1学期の人権・同和教育第1弾は、昨年に引き続き、総体期間中6月2日(木)のDVD鑑賞会でした。6月24日(金)には、人権・同和教育研究授業を、6月30日(木)には教職員研修を実施しました。また期末試験明けの7月6日(水)には、PTA生徒育成委員会の「生徒と保護者の懇談会」に参加させていただきました。

今回は各活動について報告します。また、この「たより」の配布とともに、ホームページにも掲載しておりますので、活動の様子をご覧ください。

♣DVD鑑賞会「絶体絶命650人決死の脱出劇」

平成5年8月に鹿児島県で発生した集中豪雨は、50名近くが亡くなる大災害となりましたが、いっぽうで650人も人が救出されました。危機に直面した人々が全員で助かろうとした強い意志は、どのように形成されたのか？当事者の証言をもとに再現されたドキュメンタリーは、土石流の恐ろしさと緊迫した空気が伝わってきます。当日鑑賞した生徒の感想を紹介します。

- ・有村さん(救出劇の中心となった駐在さん)は冷静な判断で、とても勇敢だった。学校生活でも周りを見て、日頃から自分がしなければならないことをしっかり判断したい。
- ・人は誰かのためと思って行動すると、ものすごい力を発揮すると思った。
- ・自分のことだけ考えるのではなく、周りの人のことも考えたからこそ皆が助かったんだと思う。
- ・見たこともないようなスピードで次々と土砂が崩れ落ちてきて、とても怖かった。その中で、取り残されたお婆さんや、自分が海に投げ出されても、死にそうな女性を背負って海から上がってきた有村さんはとても勇敢だ。
- ・けがをしているのに、「自分は警察官です。最後まで残ります。」と言って、最後に救助船に乗る有村さんはカッコよかった。
- ・海と山に挟まれ、いつ土砂崩れが起こるか分からない状況にいたら、きっとパニックになってしまうと思う。その中で、有村さんの勇氣ある行動に、協力する人が出てきたから助かったのだと思う。

♣人権・同和教育研究授業から

今年は、昨年のふり返りを生かした指導案を各学年で検討してもらいました。そして、1年生は「身近な人権学習～気持ちの伝え方」、2年生は「部落差別から学ぶ～差別の不合理さ」、3年生は「就職・進学差別をなくすために」について学びました。3年生の授業を参観された同和教育専任教員からは、「生徒の発表内容をいかす進め方は、生徒がよく注目している。授業者が自分の体験や実際にあったケースを語っていて、生徒の表情から自分のことに照らし考え始めたように感じた。」という感想を頂きました。生徒の感想は以下のとおりです。

<1年生>

- ・相手に自分の気持ちや思いを伝えるには、相手を気づかい、相手の気持ちと自分の気持ちを考えてから伝えると、相手も自分も傷つかないことがわかりました。
- ・人と人との関係はその一言で相手を傷つけてしまうのだと改めて感じた。上手く人に伝えきれないかもしれない時も、相手を思いながら人と接していきたいです。
- ・相手と話すときは相手のことを考えて優しく厳しく言うことが大切だと分かった。これからは気をつけて生活していきたい。
- ・自分の気持ちを一方的に伝えるのではなく、相手の事情も聞いてお互いの気持ちを尊重することが大切だと分かった。
- ・自分の意見を言うばかりでなく、マイルドな言い方を心がけたいと思った。これから先こういう時は感情的にならないように気をつけたいです。

<2年生>

- ・いじめを受けたからこそ学んだことは、1つのいじめをなくせば新たないじめができるということです。下をつかって自分が安心したいから、いじめはなくすことはできませんが、少なくすることは出来ます。そのために何かアクションを起こしやすい空気を作ってあげるのがいいと思いました。

- ・グループワークでは色々な意見が聞けて、自分の考えと違う考えもあって参考になった。
- ・身近でやっている「からかい」や自然と言ってしまう「暴言」も差別やいじめにつながっているんだと思った。みんなで行っていると本当の判断ができなくなってしまうのかと思った。
- ・江戸時代の差別ほど私たちの時代は差別がないかと思ったが、シチュエーションのグループワークでは、周り考えても無意識に「差別」や「いじめ」は起きていると思った。軽い気持ちのふざけた発言でも言われた人は傷ついているかもしれない。

<3年生>

- ・質問に対して答えるかどうかを考えなければならないということを初めて知った。
- ・話しを聞いて、確かにこういう不適切な質問が自然と出る会社はダメだと思った。質問を見極められるか、答えないと印象が悪くなるのではないかと不安に思ったが、答えてしまっても適切な対応をしたい。
- ・自分が受験する時に注意することによって、皆が公平に受験できるので「14項目」をしっかりと勉強したい。
- ・本番になったら緊張や焦りでできっと不適切な質問に答えてしまうだろう。でも、そこは面接練習などを繰り返し、慣れることで変わると思う。本番では気づかずに不適切な質問に答えてしまったら、報告書にしっかり書けるように面接内容を忘れずに覚えておきたい。
- ・今まで面接官に聞かれることは全て答えないと不利になったり、落とされたりするのではないかと考えていたけど、今日の授業で受験者側にも質問を拒否したりプライバシーをきちんと守れる権利があることが分かって良かった。

♣生徒と保護者の懇談会

今年度のテーマは、昨年益田市の情報リテラシーの指定を受けたことから「スマートフォンを考える」と、一昨年からの継続中の「ふるさと益田を考える」の2つについて、生徒会の生徒22名と保護者10名が話し合いました。スマホについては、予想に反して「ないならないでそのように生活できる」という意見が生徒からあり、時間の使い方等マイナス面についても分かっている様子が見られました。また生徒にとって益田のよさは、自然の豊かさがダントツでしたが、仕事や給料面の不安があげられました。Uターン経験者が多い保護者からは、卒業後、都会でどのように生活していたか、なぜUターンしたのかお聞きしました。また都会の人の方が、私たちの身近に素晴らしい技術を持った人がいることや、豊かな自然を生かした起業ができることなどをよく知っており、外から見ると益田の魅力がより鮮明になることを教えていただきました。そして、地元の豊かな資源を生かした技術を身につけることが、地元での生活や活性化につながるのではないかと意見をいただきました。



※夏の人権・同和教育講座のご案内

◆2016年度 島根県人権教育夏期研修

7月29日(金) 12:30~16:50*三隅中央会館

※資料代¥1,000が必要ですが、浜田市に居住・勤務されている方は無料です。

◆第16回石西地区人権・同和教育研究集会

8月16日(木) 8:45~16:30*人権センター

